

●洋上風力先進地視察（長崎県五島市） 岩崎 由美  
10月8日（水）～9日（木）

東京都の気温は、この100年あたりで約2.6℃上昇しているという。日本の化石燃料への依存度は高い水準で温暖化を防ぐためにCO<sub>2</sub>の削減であり、東京都として2025年にCO<sub>2</sub>排出量実質ゼロに貢献する「ゼロエミッション東京」の実現を宣言した。すなわち2030年までに温室効果ガス排出量を50%に削減し、再生可能エネルギーの利用向上を高めていく施策だ。その技術のひとつが浮体式洋上風力発電である。都は、伊豆諸島の風況が良いことを受け、大島、新島、三宅島、神津島、三宅島、八丈島各島沖を準備区域とした。このため八丈町では令和6年度より「洋上風力発電関連する地域研究・検討会議」が開催されている。これらの島で作られた電力を各島内だけでなく、島外へ運ぶ事も考えられている。

先進地である五島列島福江島では、2013年に「はえんかぜ」という風力発電施設が試験的に設置され、2021年10月には事業主体は五島フローティングウインドファームが設立された。2026年1月には8機の風力による国内初の業運転が開始され、再生可能エネルギー導入と地域経済化のモデルとして注目されている。出力は16,800Mwで約13,000世帯分の年間使用電力使用量という（かつて八丈島で稼働していた地熱発電所が3,300Kw）。発電された電力は五島市民電力株式会社により小売事業者に売電される予定だ。

浮体式洋上風力の仕組みは、風車を固定せず起き上がり小法師のように海上に浮かべアンカーで海底に係留する方式。全長は約176mで海上部分の高さは約100m（通天閣の高さとほぼ同じらしい）。近年は大型化する傾向にあるという。今回は残念ながら海況不良のため発電施設には近づくことはできず、その規模を体感する事ができなかったが、アンカーや浮体本体など水中部分に形成された魚礁を映像によって見せて頂いた。

その他、自然エネルギーの地産地消、施設の運転管理・保守点検等の関連会社による雇用の創出、固定資産税の対象であるため行政の税収アップ、観光協会による視察ツアーなどなど地域貢献度は計り知れないと感じた。一方で、施設に魚礁が形成されたとしても周辺での操業が可能なのか、渡り鳥など野生生物への影響、陸上部に必要な広大な建設用地の確保や風車を運搬するための船が着岸できるような港湾整備、耐用年数を過ぎた後のリサイクル技術の課題もある。八丈町はまちづくりの基本方向のひとつとして「クリーンアイランドを目指す町」を掲げており、現在オリックスと協力しながら地熱発電開発を目指している。まずはこちらに注力し、新島や神津島など先行する可能性のある島の動向を見ながら検討会を重ねてその方向性を考えていくべきと考える。